

## 報告

## ACMP 2018 コンサート・会議報告

### A Report on Asia Computer Music Project 2018

森 威功  
Takeyoshi MORI  
洗足学園音楽大学  
Senzoku Gakuen College of Music

水野 みか子  
Mikako MIZUNO  
名古屋市立大学  
Nagoya City University

小坂 直敏  
Naotoshi OSAKA  
東京電機大学  
Tokyo Denki University

#### 概要

本年9月15,16日の両日、タイの Silpakorn 大学において ACMP (Asia Computer Music Project) 2018 を開催した。今回は東南アジア地域での初開催となり、東アジア4カ国（日本、韓国、中国、台湾）と開催国タイの作曲家・研究者が参加して、2つのコンサートと6つの研究講演を実施した。以下では、これまでの ACMP の流れを紹介した後、本年の ACMP について報告し、今後の展望について述べる。

Asia Computer Music Project 2018 was held at Silpakorn University in Bangkok on September 15th and 16th, 2018. It was the first ACMP in South-East Asia. Composers and researchers from Thailand, China, Taiwan, Korea and Japan participated in this project and it comprised two concerts and six lectures. This paper reports its history, its outline, and its future prospect.

#### 1. 発足から今日に至る経緯

1993年のICMC開催をきっかけに、わが国はコンピュータ音楽の分野が発展してきた。ICMAはICMCを企画するための母体となる組織で、各国々を米国、欧州、アジア・オセアニアの3つの地域に分けて管轄している。ACMPは、ICMAアジア地域の地域イベントとして、2008年に小坂、Shin、Wyzeにより発案され（Osaka, Shin and Wyze 2010）、同年、韓国 Daegu で初回開催された。

ICMCと同等の規模の国際企画は、その大きさから、同一地域の継続的開催は難しい。一方、中国、台湾、韓国は、より小規模であるが、毎年コンピュータ音楽の国際会議を開いていた（国対応で、それぞれ MusicAcoustica, WOCMAT, SICMF）。しかし、各国が毎年国際会議を開催すると、地域内では国際交流が散漫になる可能性もあった。

そこで、アジア地域に限定し、各国の持ち回り開催により、アジア地域内での交流がよりしやすく継続性のある企画として、ACMPは位置付けられた。また、欧米主導の本分野で、アジアのプレゼンスを上げる必要がある、との考えもあった。以上の開催までの背景と初回開催の報告は文献（小坂 2010）に詳しく記載されている。

運営組織としては、ゆるやかなものとし、会長を始めとした明確なポストをおかず、イベント対応の体制を自由にとることとした。開催希望の国が手を挙げて成立する。特に年1回開催と厳密にせず、開催国の都合がよければ常時行うこととした。

表1に、初回開催以降のこれまでの開催履歴について記した。わが国と韓国から始まった企画が、翌2011年には台湾が、また2015年にはシンガポール、2016年には中国が参加し、本年はタイが参加した。

2011年は年に2回開催された。また、2014,2015は活動がやや停滞した。2015年は、シンガポールで第2回 International Symposium on Sound and Interactivity の開催に ACMP が広報等の協力をしたもので、ACMP が実際の催しを行ったわけではない。

企画は、コンサートが主体で、研究発表が行われない回もある。わが国、および台湾開催時は、コンサートと研究発表も充実した企画となっている。以上の様子は URL に記されている（ACMP WebSite）。

#### 2. ACMP 2018

ACMPは2010年より東アジアの国々で開催されてきたが、アジア全域からより多くの参加者を募り交流を深めていくために、東南アジア地域での開催を模索してきた。その中で洗足学園音楽大学や東京藝術大学と交流があったタイの Silpakorn 大学に開催を打診した結果、近年同国でコンピュータ音楽や録音技術に加えサウンドアートやプログラミングアートを学ぶ学生が増えてきているとのことで、ぜひ前向きに検討したい

表 1: ACMP 開催概要

名称	開催日	開催場所	開催施設	企画者	企画内容	参加国	備考
ACMP 2010	10.2	Daegu	Keimyung 大学	Seongah Shin	コンサート	日本, 韓国	初回開催
ACMP 2011 No. 1	11.3	Gyeongju	Gyeongju Arts Center	Seongah Shin	コンサート	日本, 韓国	
ACMP 2011 No. 2	12.16 -18	東京	東京電機大学 (神田 C)	小坂 直敏	コンサート 研究発表会	日本, 韓国 台湾	
ACMP 2012	12.1	Hsinchu	交通大学	Yu Chung Tseng	コンサート	日本, 台湾	WOCMAT 2012 と 共催
	12.2	TaoYuan	開南大学	Chih-Fang Huang	研究発表会		
ACMP 2013	10.4	名古屋	名古屋市立大学	水野みか子	コンサート*1	日本, 台湾	JSSA と 共催
	10.5				研究発表会	日本	
Si15	8.18 -23	シンガポール	Nanyang 技術大学	PerMagnus Lindborg	研究発表会 コンサート	多数	ACMP は 協力
ACMP 2016*2	10.1	東京	洗足学園音楽大学	森 威功	コンサート	日本, 韓国 台湾, 中国	JSSA 音楽祭 2016 の一環
ACMP 2017	10.11 -12	ソウル	Hanyang 大学	Jongwoo Yim	コンサート 講演	日本, 韓国 シンガポール	
ACMP 2018	9.15 -16	バンコク	Silpakorn 大学	森 威功	コンサート 講演	タイ, 日本, 韓国, 中国, 台湾	

\*1 ネットワークコンサート, \*2 副題:Sonic Arts Projects Vol.4, No.2.

との返答があり開催に至った。そして、現地スタッフのみでの運営は難しいとのことで、筆者（森）がメイン・キュレーターとして遠隔地から全体をプロデュースすることになった。

Silpakorn 大学は 1943 年に創立された国立の総合大学で、特に音楽を含めた芸術系のコースが充実している。キャンパスはバンコク市内に数箇所あり、メイン・キャンパスは観光名所となっている寺院や王宮に隣接しており、タイの歴史や文化が色濃く感じられる地域に位置している。今回の会場となった音楽学部はこのキャンパスから数 km ほど離れた別のキャンパス内にある。

ACMP の特徴として、プログラムに関しては特定の枠組みをもたず、企画者の判断でコンサート数や研究発表の有無など柔軟に企画することが可能だが、今回は 2 つのコンサートと 6 つの研究講演を実施した。

コンサートは、15 日に Asia Young Composers コンサート、16 日に ACMP コンサートを実施した。タイではコンピュータ音楽の研究グループや学会等は存在せ

ず、本分野を学ぶ学生が作品を発表する場も限られているとのことで、今回学生向けに Asia Young Composers コンサートを実施した。ここでは、ACMP コンサートの招待作曲家によって推薦された 10 作品が発表された。タイ、日本、韓国、台湾の学生作品が中心で、日本からは名古屋市立大学大学院の森崎浩由氏によるオーディオ・ヴィジュアル作品と洗足学園音楽大学の石川奎一郎氏によるアコースティック作品が披露された。フィクストメディア作品が多い中で、開催校 Silpakorn 大学から Soonthorn Tanjapoh 氏のコントラバスとピアノのためのライブエレクトロニクス作品「I Contra」が発表されコンサートの最後を盛り上げた。

翌日に実施された ACMP コンサートは今回のメイン企画であり、5 カ国（タイ、日本、韓国、中国、台湾）から 12 人の作曲家が招待され作品を発表した。日本からは小坂直敏氏、水野みか子氏と筆者（森）が参加した。作品形態はマルチチャンネル・オーディオ作品が 2 作品、オーディオ・ヴィジュアルが 5 作品、センサー系ライブエレクトロニクスが 2 作品、楽器を用

いたライブエレクトロニクスが3作品となった。中国から参加した Wenlin Ban 氏の自作楽器を用いたノイズパフォーマンスや Zhu Shijia 氏の VR センサー作品をはじめ、普段コンピュータ音楽のコンサートに行く機会が少ないタイの聴衆にとっては目新しいものも多く、コンピュータ音楽分野における多様な音楽・音響・視覚表現を感じてもらえたのではないだろうか。また、今回ライブエレクトロニクス作品の演奏を担当したオーボエの Thanit Kaewrak 氏（水野作品）、ヴァイオリンの Sittichai Pengchareon 氏（Chih-Fang Huang 作品）、ソプラノの Pimluk Vessawasdi 氏（Chih-Fang Huang 作品、Yu-Chung Tseng 作品）が素晴らしい演奏を披露してくれたこともここに記しておく。

研究講演は開催スケジュールの都合で各国から1人の発表を基本方針としたが、台湾から研究講演のみの参加希望があり結果的に6つの研究講演が実施された。AI作曲やミクスト音楽の歴史など幅広いトピックについて発表があり、日本からは小坂直敏氏が発表を行い、水野みか子氏が研究講演の司会を担当した。コンサートと研究講演の詳細は URL に記載されている。(ACMP WebSite)



図1: コンサート終演後の全体写真

### 3. 発表について

#### 3.1. 森

森は「Misty Graffiti for audiovisual」を発表した。EM S2017（名古屋）で初演、ACMP2017（ソウル）及び Musicacoustica2017（北京）、ICMC2018（大邸）で再演した作品だが、今回のコンサートのために音響部分を2chから4chにリミックスした。映像部分の制作は、まず白煙を撮影した動画から多様なパターンや動きを抽出して抽象的な映像素材に変換した。そして、それらが霧の中に次々と現れては消えていくような構成を試みており作品名はこれに由来している。また、



図2: セッティングの様子

これらの映像素材は、繊細なタッチで描かれた水墨画の一部を拡大したようにも見えるので、擦弦楽器の弓を筆に見立てチェロや二胡の音を主な音響素材と用いて音響部分を制作した。

自作品に直接関係しないが、今回の2つのコンサートで音響（PA）を担当した。タイでは電子音響音楽のコンサートに精通したPAエンジニアを探すことが難しいとのことで、Silpakorn大学の教員や学生に協力してもらい、大学所有の音響機材で4.1chのシステムを組むことにした。また、音響以外にも照明、映像、ステージマネージメントなど、同大学のスタッフが積極的にサポートしてくれたおかげで2つのコンサートが無事に終わることができた。しかし、今回は限られた音響機材とそれらのコンディションにやや不安がある中、上演数の多いコンサートに対応しなければならず、本番のオペレートに関してはいくつか改善すべき点があった。これは今後東南アジア地域をはじめ遠隔地からコンサートをプロデュースする上での教訓としていきたい。

#### 3.2. 水野

水野は、オーボエとコンピュータのための「カimakリ」を出品した。この作品は、2013年に名古屋で初演され、その後、生演奏とのインタラクションがよりスムーズとなるために、エレクトロニクスの部分を数回改訂した。今回は改訂初演となる。タイトルは、トルコのアナトリア地域にある地下都市の名前に由来する。カimakリの古代から聞こえてくるように、電子音響はしばしば深いトンネルの中からやって来る。ヒットタイトの静かな地下生活は、冷たくはないけれどスタティックな時間を感じさせる。今回オーボエを担当していたのは、Silpakorn大学の Damrih Banawitayakit 音楽学部長の愛弟子 Thanit Kaewrak くんだった。まだ学部生であったが、特殊奏法やフレーズングなど、細部



図 3: キャンパスの様子



図 4: ACMP2018 会場の Silpakorn 大学音楽学部

まで熱心に読譜し、精密にこなしてくれた。他の出品曲も含め、演奏してくれたタイの若手たちは総じて優秀であった。

### 3.3. 小坂

小坂は、研究講演と作品発表を行った。研究発表は、“An introduction of a new digital effect “Sound collage” and its application to music composition” という題名で行った。これは文献(小坂 2017)の発表の上に近年扱っているサウンドコラージュというエフェクトの合成音とその楽曲応用について紹介したものである。学生らが熱心に聞いていた。しかし、講演は、楽曲発表者はリハーサルと重なり、互いに他の発表者の発表を十分聞聴けないことが残念である。

小坂の楽曲は、喃語“YayaYa”4ch 音響のための、という作品である。音韻獲得はしたが、言語を獲得していない幼児の声は非常に魅力的な声質(音色)で、これを素材とした楽曲である。1993年にヴァイオリン、ソプラノ、とコンピュータのための作品として初演し、2010年に電子音響のみのステレオ音源として改訂初演したものを、今回新たに4ch音響作品として再度改訂した。サウンドインタフェースとMacを持参して行っ

たが、演奏効率上主催側の共通マシン上にソフトを転送して実施した。しかし、残響のソフトの部分が動作しないことが残念であった。フィクストメディアでの多チャンネル作品制作と発表は始めてであったが、今後とも発展的に実施したいと感想を持った。

### 4. 今後の展望

2017年にはシンガポールからの出品、そして今回はタイ開催と徐々に東南アジアへ展開しつつあり、今後もさらに多くのアジアの国々の参画が期待される。また、すでに台湾や中国から来年度以降の開催について打診があるので、年一回に限定せず複数開催も検討していきたい。小規模であっても開催数を増やし、より多くの作曲家・研究者が継続的に参加できる仕組みを構築していくことがACMPの存在意義を高めていくことになり、ひいてはアジア地域におけるコンピュータ音楽分野コミュニティの充実につながっていくだろう。

また、ICMCが2017年の上海そして2018年の大邸と2年連続アジアで開かれて、SICMF(韓国)、WOCMAT(台湾)、MusicAcoustica(北京)、EMW(上海)などの国際企画も継続的に開催され、毎年欧米から多くの作曲家・研究者が参加している。このような状況の中

で、本分野においてアジアのプレゼンスは確実に向上しているのではないだろうか。ACMPもアジア発の国際企画の一つとして、今後も本分野の発展に継続的に寄与していきたい。

## 参考文献

Osaka, Naotoshi., Shin, Seongah., Wyze, Lonce. 2010. "Founding a New Computer Music Workshop in Asia," in the *Proceeding of ICMC 2010*, pp.422, New York City and Stony Brook university, 2010.6.5.

小坂直敏 2010 「ACMP(アジアコンピュータ音楽プロジェクト)の構想」, 先端芸術音楽創作学会 会報 Vol.2 No.3 pp.8-12, 2010.12.

ACMP Web Site <http://www.acmp.asia/>

小坂直敏 2017 「構造的音色とその電子音響音楽への応用」 先端芸術音楽創作学会 会報 Vol.9, No.1. 2017.7.

## 小坂 直敏 (Naotoshi OSAKA)

昭 51 早大・理工・電気卒。昭 53 同大大学院修士課程了。同年日本電信電話公社(現 NTT)入社。以来通話品質の研究, 音声対話の研究, コンピュータ音楽あるいはマルチメディア創作のための音響研究などに従事。平 6 早大より博士(工学)。平 8-14 コミュニケーション科学基礎研究所音表現およびメディア表現研究グループリーダ, 平 15 東京電機大学・工学部教授。メディアコンテンツのための音響情報処理の教育と研究に従事。また, 音楽制作および発表活動も行う。日本音響学会, 電子情報通信学会, 情報処理学会, ICMA, IEEE 日本電子音楽協会各会員。現在, 東京電機大学 未来科学部 教授。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際ライセンスで提供されています。ライセンスの写しをご覧になるには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> をご覧頂るか、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。

## 5. 著者プロフィール

### 森 威功 (Takeyoshi MORI)

洗足学園音楽大学卒業、ニューヨーク大学大学院修士課程修了。作曲を Robert Rowe, Joel Chadabe、サウンドプログラミングを Richard Boulanger, Nick Didkovsky 各氏に師事。作品は Musica Viva, ICMC, NYCEMF, MusicAcoustica, ACMP 等国内外のコンサートや音楽祭で演奏されている。近年は東アジア地域における電子音響音楽コンサートのプロデュースや教育活動を積極的に行っている。現在、洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース准教授、東京藝術大学及び桜美林大学非常勤講師、ICMA(国際コンピュータ音楽連盟)アジア・オセアニア地区ディレクター、日本電子音楽協会副会長。

### 水野 みか子 (Mikako MIZUNO)

東京大学文学部美学芸術学科卒業、愛知県立芸術大学音楽学部・大学院研究科作曲専攻修了。2001年、音楽の空間性に関する研究によって博士(工学)取得。近年の作品は、ISEA, ISCM, ICMC、アルバ国際音楽祭、ヴェネチア国際音楽祭、北京 MusicAcoustica などで上演されている。08 愛知県芸術文化選奨。08 年より EMS 国際大会で連続的に電子音響音楽の研究成果を発表。2011~2013 年には、北京、カルガリー、名古屋、東京を高速音響送受信システムで結ぶネットワークコンサートを実現。2016 年パリ・ソルボンヌ大学招聘研究員として電子音響音楽研究を行った。